

アパレルサプライチェーンにおけるデータ利活用による物流最適化 検討業務

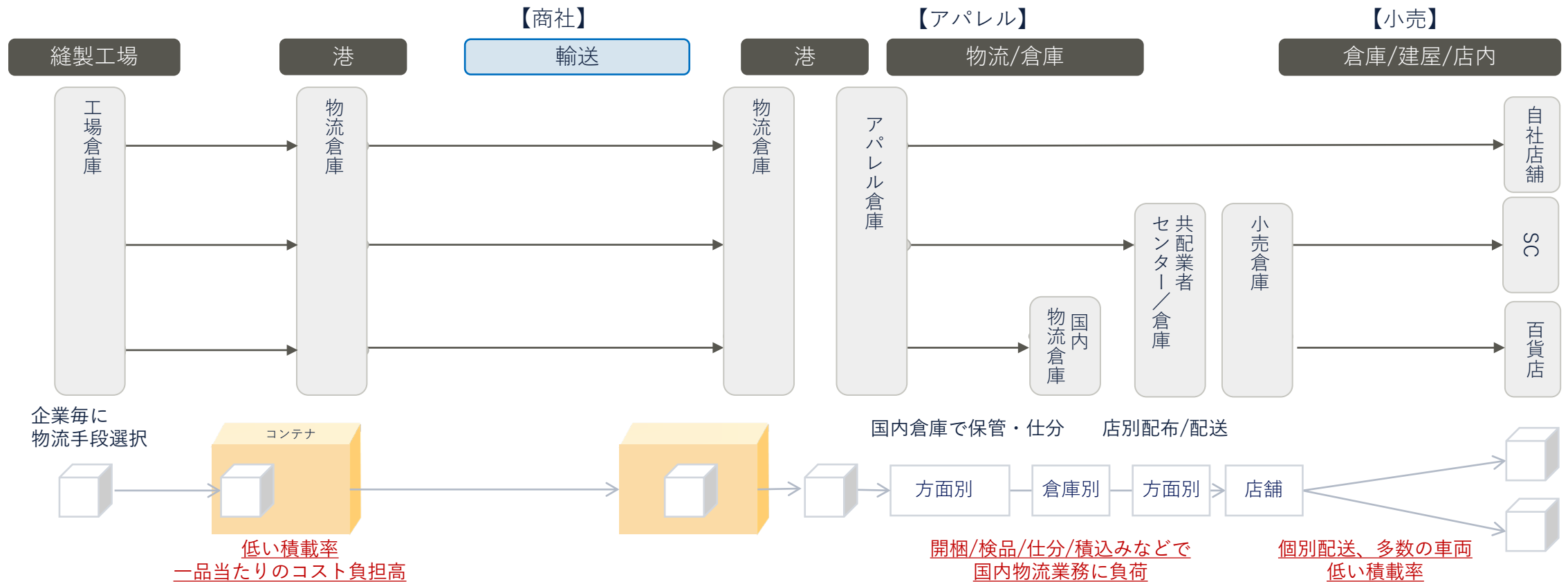
～事業概要～

2021年10月20日

一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会

アパレルサプライチェーンの構造

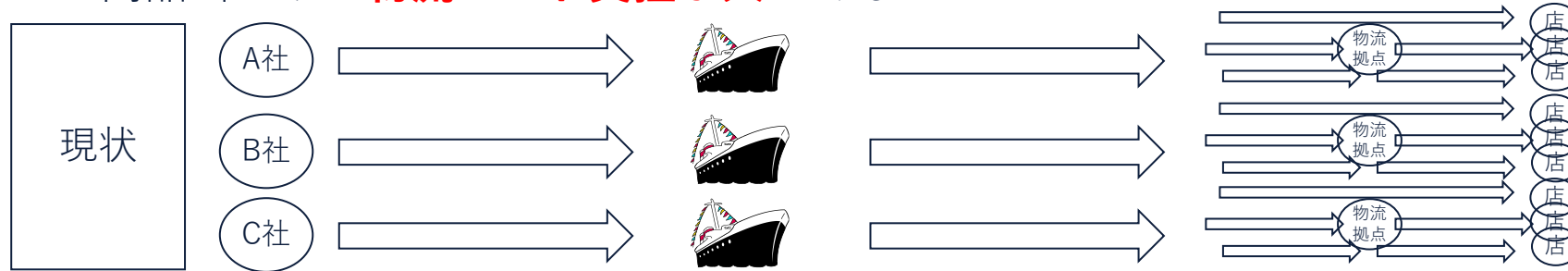
- 複数のプレイヤーが存在しており、**多段階・多ルート**の複雑な**サプライチェーン**となっている。



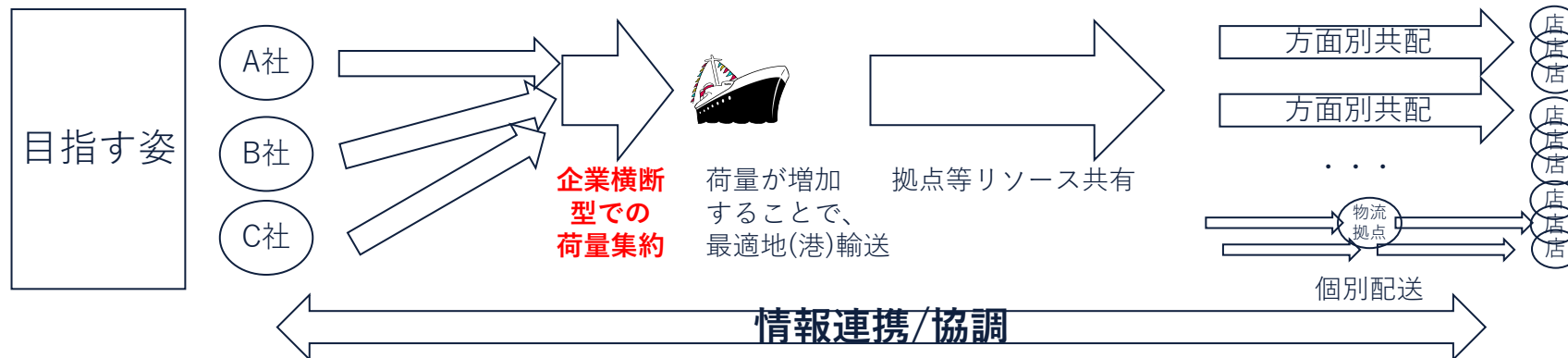
海外調達を含むアパレルサプライチェーンにおいて、共同化・効率化の余地は多数存在

本事業提案における問題意識

- 現状、各アパレルの輸配送は、個別に実施。**生産量やスケジュールのバラツキ、多方面への店別配分等**のため、配送当たりの物量は少なく、積載率が低い状態で実施されている
- 結果として商品当たりの**物流コスト負担が大きくなる**



- 輸配送面の効率を高めるために、**複数アパレル企業の荷量を集約**し、積載率を高めることで物流コスト負担の軽減を図る。その実現のためには**情報連携**が不可欠。

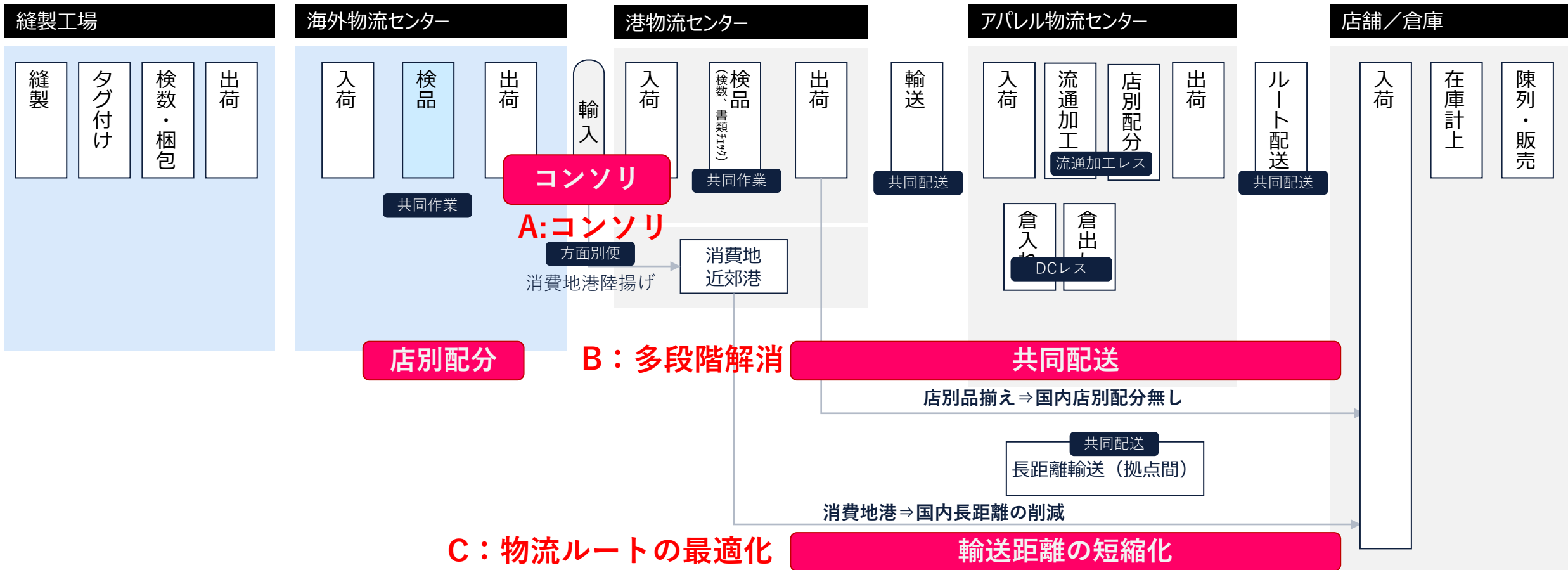


目指す姿（サービス概要）

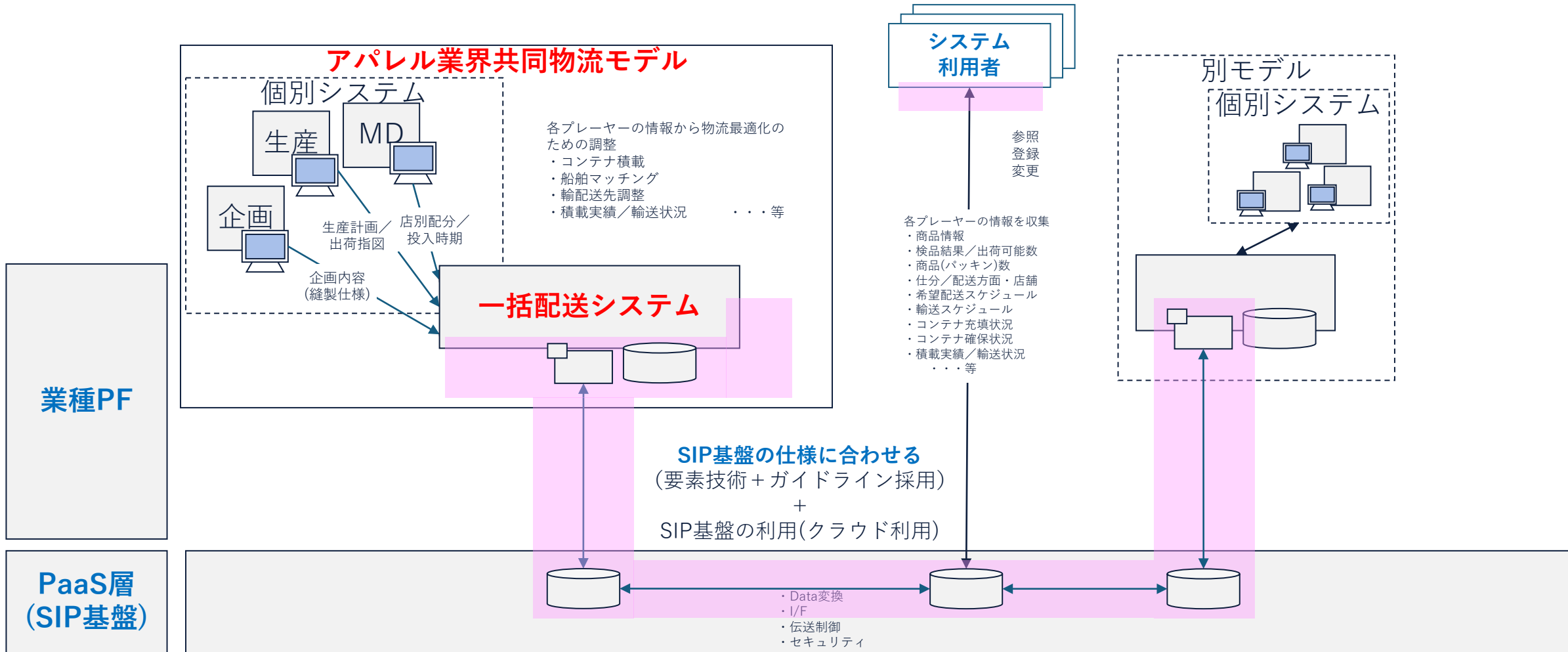
[A] コンソリ [B] 多段階解消 [C] 物流ルート最適化による課題解決

海外

日本



構築対象システムイメージ



社会実装の実現ステップ

第1段階

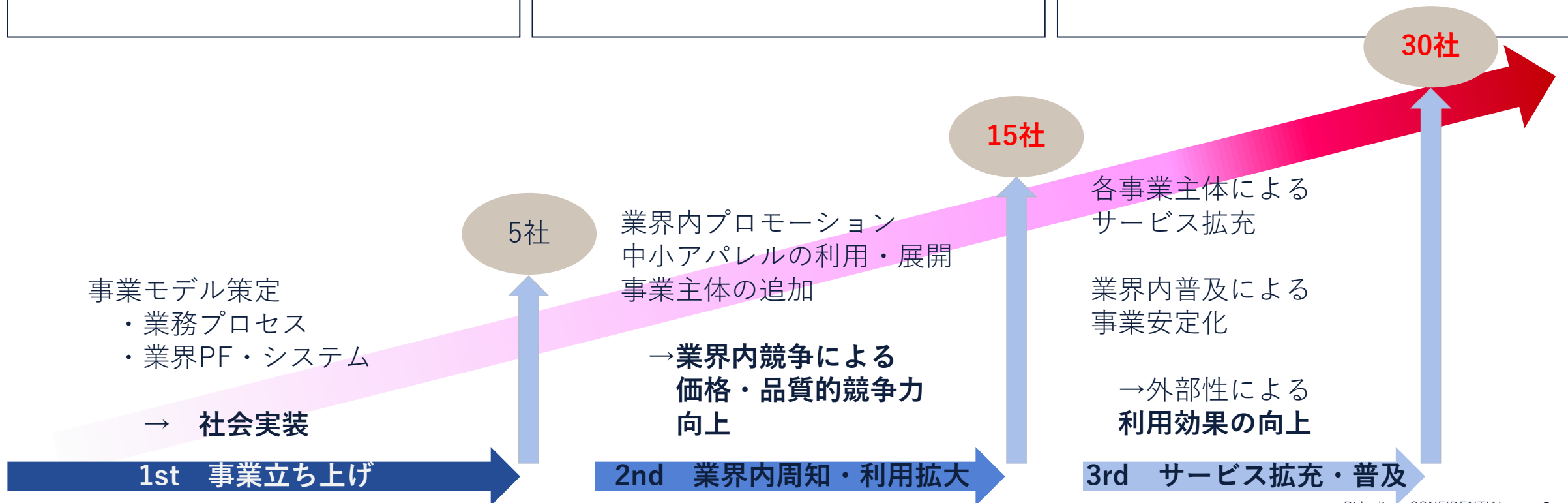
- 事業主体企業及び5社程度の**利用企業による実証、事業サービスモデルを確立**
⇒ 確立したサービスを実ビジネスとして利用企業に対して提供
※22年末時点では、実証参加企業の継続利用を想定

第2段階

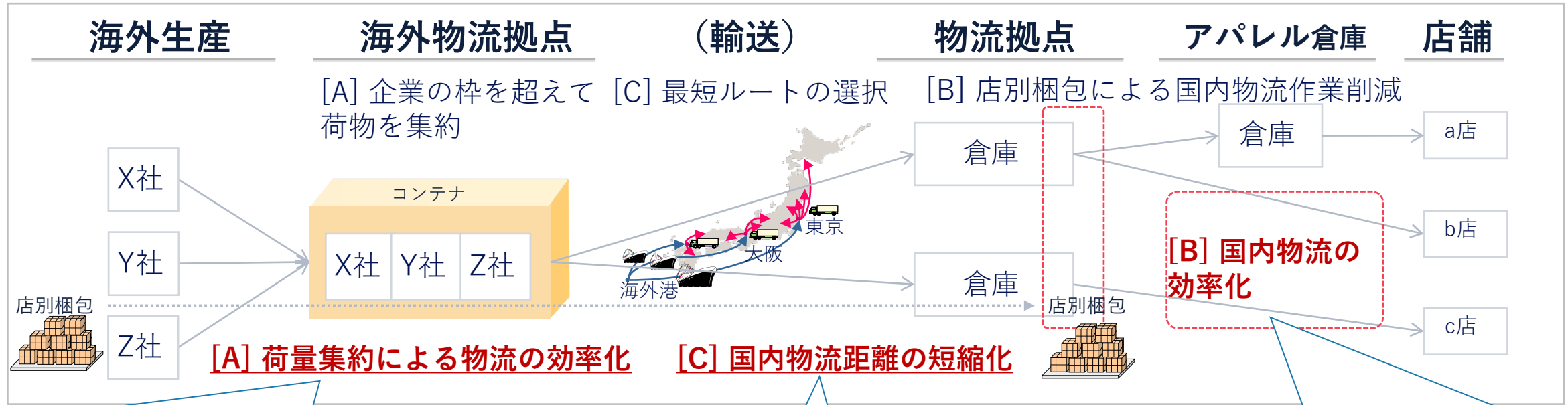
- 事業主体企業が提供する**サービスの業界内に周知**し、利用企業の拡大、業界内におけるサービスモデル利用による効果の増大を図る
- 中小アパレルの利用・展開を想定

第3段階

- 事業主体企業の**サービスの拡充**
- 他の主体企業の出現による業界内サービスの競争による価格・品質的な競争力の向上
- 利用企業に対する選択肢の拡張、同様のサービスの利用拡大を図る



期待される経済効果



【海外輸送】

- ・コンソリデーション実現による積載率改善：60%→75%
- ・コンテナ数削減：約22,000本 → 約17,500本

[海外輸送費用]
 $17,500 \times 15\text{万円} = \text{約}26\text{億円/年} \Rightarrow \text{約}7\text{億円/年の削減}$

【国内配送】

- ・共配等による積載率改善(店舗配送)：60%→80%
- ・車両台数削減：30,000台 → 24,200台

[国内配送費用]
 $24,200 \times 66,300\text{円} = \text{約}16\text{億円/年} \Rightarrow \text{約}4\text{億円/年の削減}$

【最適地輸送】

- ・コンソリによる積載率向上は、国内各大都市圏への輸送を可能とする。それにより長距離輸送が減少し、労働環境の改善やCO2削減に貢献

研究開発計画(仮)

